

昨年(2011年)の1月1日号は、第1部(40ページ)、2部(40)、第3部(8)第4部(8)、第5部(8)で、合計104ページもありました。今年も同じページ数です。

元日の紙面では、まず、ニュース記事よりも意見記事(論説)や企画記事に注目しましょう。社説、コラム、そして1面の企画記事のテーマです。これらの記事では、本文を要約することが大事です。本文の2、3割程度を淡い色の蛍光ペンで塗ったあとでつなげると、要約になります。次に、この要約と見出しから、今年を予感するような「キーワード」を探してみると面白いでしょう。

地方紙には、120ページを超えるものもありますが、なぜ1月1日の朝刊は、普段の2倍以上のページ数になっているのでしょうか。

この日は、日本に暮らす人にとっては、ハレの日のなかでも特別な日であり、それに相応しい新聞にしているといえます。私が子どもの頃でも、特別な別刷りが付いていた記憶があります。また、広告の依頼も多く、それに合わせて紙面を増やすことが出来るからです。

広告も普段とは異なり、「お祝い」に相応しいものが多くあります。子どもたちに探させるとよいでしょう。